

〔科目名〕 財務管理	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目・選択
〔担当者〕 長谷川美千留	〔オフィス・アワー〕 講義時に提示 時間: 場所: 503 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>財務管理の定義は、さまざまである。最も狭義の定義は、財務管理とは企業における資金調達および運用であるとするものである。近年、企業の重要な目的として、企業価値の向上が掲げられている。企業価値とは、非常に単純にとらえるなら、株式時価総額である。企業価値向上という目的を達成するために、資金調達、資金運用、株主還元といった課題に対し、企業は各々の利害関係者(ステークホルダー)を納得させるよう、慎重に判断をしなければならない。</p> <p>企業を取り巻く利害関係者(ステークホルダー)のうち、とりわけ株主を重視する近年の傾向について、どう考えるべきかという問題についても検討しなければならない。このため、技術的な知識のみならず、現代社会における企業の在り方や公共性についても、意識すべきである。</p> <p>財務管理は、資本収益性と財務流動性という二つの具体的視点から、これを企業の目標と関連させて考える。前者の視点は、収益性管理、すなわち投下資本に対していかに利益を獲得できたかという視点である。後者は、流動性の管理、すなわち債務の返済能力や支払能力を適正に維持するという視点である。この二つの視点を軸に、財務分析、経営分析、財務諸表分析の手法や、多様化する昨今の企業報告システム、新たな資金調達方法などに関する理解と組み合わせながら、検討を進めていく。</p> <p>近年、財務指標なかでも ROE(株主資本利益率)がとりわけ、重視される傾向にある。企業価値の向上、株主価値経営および ROE(株主資本利益率)の三つが、いわば三位一体となり、我が国の企業が積極的に取り入れるべきものとされ、高く評価されている。その一方で、ROE(株主資本利益率)を過度に重視することに批判的な見解もみられるため、この点についても検討したい。</p>		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>財務管理論の学修に際し、経営学に関する知識、会計学に関する知識、金融に関する知識が役立つ。したがって、カリキュラムのうち経営学の基礎を学ぶ科目、簿記や会計学の基礎を学ぶ科目、金融の基礎を学ぶ科目については、すでに修得していることが望ましい。</p> <p>第一に、ROE が示す課題から、株主価値経営について考えるため、企業と利害関係者(ステークホルダー)の関係はどうあるべきか、という経営の観点が必要である。第二に、財務流動性および資本収益性に関する具体的な検討をするためには財務諸表の数値を用いるため、簿記や会計(財務諸表)に関する理解が必要である。とくに財務分析(財務諸表分析、経営分析)の手法を用いるため、財務諸表に慣れていることで、財務管理をより技術的かつ具体的に容易に理解することができる。また、第三に、企業の資金調達に関する検討をするため、資本市場や金融の仕組みといった構造を理解していることにより、財務管理を学ぶ上での企業の外部の構造、システムを理解することができる。上述のように、主に三つ関連分野から財務管理論にアプローチすることで、その課題を複合的かつ立体的に理解することが出来る。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 〔中間目標〕 企業経営における財務管理の意義を理解すること。 〔最終目標〕 多様な価値観が展開される環境下で、企業経営を存続していくためには、どのような財務管理手法が有効であるか、理解すること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕		
〔教科書〕 榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄・太田浩司・山崎尚志・山田和郎・月岡靖智『新・現代の財務管理』(有斐閣、2023年)		
〔指定図書〕 A)鳥居陽介編 現代財務管理研究会『テキスト財務管理論第6版』(中央経済社、2022年) B)きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著『FP 技能検定教本1級 ②金融資産運用 22～23年版』(きんざい、2022年)		

<p>〔参考書〕 藤井則彦・藤井博義・威知謙豪著『スタートアップ財務管理と会計—コーポレート・ガバナンス、日本企業の経営組織との関連で—』（中央経済社、2020年）</p>	
<p>〔前提科目〕 経営学・簿記・会計学に関する基礎科目。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 定期試験による評価。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 定期試験(100%) 評価 A 80点以上 評価 B 80点未満～70点以上 評価 C 70点未満～60点以上 評価 D 60点未満～50点以上 評価 F 50点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は、ゆっくり進めます。</p>	
<p>実務経歴 該当なし。</p>	
授業スケジュール	
第1回	<p>テーマ: 財務管理とは何か 内 容: 財務管理の意義について。 教科書 第1章「財務管理とは」・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ: 財務的意思決定の基礎 内 容: 企業価値創造と割引キャッシュフロー法。 教科書 第2章「財務的意思決定の基礎」・指定図書 A) 第1講</p>
第3回	<p>テーマ: 財務諸表と財務分析 内 容: 財務諸表と財務分析の概要 教科書「第3章財務諸表と財務分析」・指定図書 B) 第4章、第5章</p>
第4回	<p>テーマ: レバレッジと資本コスト 内 容: レバレッジ効果と資本コスト 教科書「第4章レバレッジと資本コスト」・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ: コーポレート・ガバナンスと ESG 内 容: 企業価値最大化をめざす経営の理想と現実 教科書「第7章 コーポレート・ガバナンスと ESG」・指定図書 A) 第6講</p>
第6回	<p>テーマ: 投資価値の創造 内 容: 資本市場における企業価値の評価 教科書「第9章 投資価値の創造」・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ: 長期資金調達制度 内 容: 企業の長期資金調達と証券市場の仕組み。 教科書「第10章 長期資金調達の制度」・指定図書</p>

第8回	<p>テーマ:エクイティ・ファイナンス</p> <p>内 容:エクイティ・ファイナンスの方法と種類</p> <p>教科書「第11章 エクイティ・ファイナンス」・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ:負債ファイナンス</p> <p>内 容:企業の負債政策、負債ファイナンスについて</p> <p>教科書「第12章 負債ファイナンスと証券化」・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ:配当政策</p> <p>内 容:配当をめぐる制度や政策</p> <p>教科書「第13章 配当政策と自社株買い」・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ:合併・買収と企業再編</p> <p>内 容:選択と集中の時代におけるM&Aについて</p> <p>教科書「第14章 合併・買収と企業再編」・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ:行動ファイナンス</p> <p>内 容:ファイナンスと心理学の融合</p> <p>教科書「第15章 行動ファイナンス」・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ:リスク管理</p> <p>内 容:リスク管理とリスクファイナンス</p> <p>教科書「第16章 リスク管理」・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ:金融資産運用</p> <p>内 容:さまざまな資産運用の形</p> <p>教科書・指定図書B)第3章、4章、5章、6章、7章</p>
第15回	<p>テーマ:これからの財務管理・学修事項の確認</p> <p>内 容:第1回から14回までの学修を確認し、これからの財務管理を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	<p>定期(筆記)試験の実施。</p>